

No. 2020-02

研究期間 R2～R4

ハバノリ養殖技術の開発**[研究概要]**

ハバノリについて、需要の高い年内に収穫可能な生産を目指し、保存株の維持、種網作成及び葉状体育成までの一連の養殖技術を開発する。

このため、天然ハバノリの生育環境・生育条件を把握するとともに、保存株から種網を作成する手法を開発する。また、種網からの育苗・育成手法を検討し、海面での養殖技術マニュアルを作成する。

[期待される成果]

- ・養殖技術の導入により、高齢漁業者や新規就業者でも安全な採取が可能になり、安定した生産による漁業所得の増加が期待でき、天然産が減少傾向にある中で地域食文化の継承が図られる。
- ・養殖場所として漁港内の活用を検討することで、漁港の有効活用や地域振興につながる可能性がある。

No. 2020-06

研究期間 R2～R4

藻場消失に係る実態把握と原因の推定及び回復対策手法の検討**[研究概要]**

藻場消失の状況に応じた対策を講じるため、内房地区において発生状況を把握し原因を推定するとともに、人工基質を用いた藻場造成技術を検討する。また、外房地区において藻場消失の兆候を早期に把握するための簡易的な実態把握手法を開発する。

このため、内房地区では藻場の消失・食害状況を把握し、食害生物の駆除効果と、核藻場造成技術を検討する。また、外房地区では水中カメラ等を用いて漁業者等が藻場の現況を簡易に把握できる手法を開発する。

[期待される成果]

- ・藻場消失地域の実態把握と原因推定を行うことで、効果的な対策を講ずることが可能になるとともに、藻場の回復が図られることで、漁業生産に与える影響の低減につながる。
- ・藻場消失の兆候を早期に把握する簡易な手法を開発することで、漁業者自らが藻場の状況を把握し、磯根漁場の保全に取り組むことが期待される。

No. 2020-12

研究期間 R2～R5

千葉県産親魚を使用したトラフグ種苗生産技術の確立**[研究概要]**

千葉県産親魚を使用したトラフグ種苗を安定生産するため、天然親魚から良質な受精卵を安定的に確保する手法の検討及び中間育成サイズまでの生産方法の検証を行い、種苗量産技術の最適化を図る。

このため、県産親魚の確保時期、精子保存方法、初期飼育の最適水温、嘔み合い防止に有効なクロレラ添加量などの検討を行うとともに、他機関で行われている生産方法を検証し本県に適した生産技術を確立する。

[期待される成果]

- ・種苗生産技術の開発および生産施設の整備に必要な基本的知見を収集・検証し、開発した技術を導入することにより、本県におけるトラフグ人工種苗の生産が可能となる。
- ・良質な種苗を安定生産して放流することで、トラフグ資源の増加が見込まれ、漁業経営の安定に貢献することが期待される。

No. 2007-03

【モニタリング課題】 研究期間 H19～R4

外海浅海域の海洋環境の把握と特性解明

〔研究概要〕

外海浅海域の漁場環境（水質、底質、海藻植生等）の現況及び長期的な変化を継続的に把握し、資源変動要因の抽出や資源状況に応じた管理手法導入のための基礎資料を得る。

このため、水質、底質のモニタリング、水温連続観測（8地点）、千倉地先における海藻植生調査を行い、現状把握及び短期・長期変動を解析するとともに、漁業関係者に情報提供し、操業効率化や漁場保全活動を支援する。

〔期待される成果〕

- ・外海浅海域における漁場環境の現況を長期的に把握していくことで、沿岸に生息する重要魚介類の資源変動及び藻場の動向の解析、資源管理手法の構築及びその高度化を進めるための基礎資料とする。
- ・漁場環境の基礎データを継続して取得することにより、外海浅海域の長期的な海洋環境の変動特性を検討するための基礎資料が得られる。

(生産技術研究室・東京湾漁業研究所)

No. 2007-04

【モニタリング課題】 研究期間 H19～R4

有害プランクトンの発生状況の把握

〔研究概要〕

東京湾及び外房海域の主要二枚貝類漁場において、貝毒の原因となるプランクトン及び漁業被害を及ぼす有害プランクトン（シャットネラ属等）の発生状況等を把握する。

このため、外房海域の主要二枚貝類漁場において海水中の有害プランクトン（貝毒、シャットネラ属等）を調査し、発生状況を把握する。（生産技術研究室）

〔期待される成果〕

- ・有害プランクトンに関する注意報や警報を発出することで、海面養殖業等の被害が防止・軽減される。
- ・貝毒原因プランクトンの発生状況及び貝毒検査の結果から、主要二枚貝類の貝毒による被害を防止し、食の安全・安心が確保される。

(生産技術研究室)

No. 2010-09

【モニタリング課題】 研究期間 H22～R3

人工魚礁の設置状況と魚類集積状況の把握

〔研究概要〕

房総沿岸海域において、人工魚礁による効果的な資源造成を行うため、既に設置されている人工魚礁の現状を把握する。

このため、主要な人工魚礁について、海底地形探査、魚群探査、ROV調査等を実施して、設置後の状況や魚礁周辺の集魚状況を把握するとともに、人工魚礁マップを作成する。

〔期待される成果〕

- ・得られた結果を各地区魚礁利用協議会で報告し、人工魚礁の利用促進を図る。
- ・本成果を活用して、魚礁の設置状況や魚類集積の実態を十分に反映した魚礁の管理や設置計画を策定することにより、効果的で利用しやすい漁場造成が図られる。